

子爲源氏、近改爲藤氏、是誰子分候哉、俊通父祖無知人、出自二條殿御流分、新作系圖、申九條殿政基公、令書與給云々、以外歟次第也、非譜第、無才無藝、無威無好、依何事可列雲客哉、父俊通始被叙三位、資直始而被補六位藏人、過分之至極也、朝家零落歎而有餘者乎、

〔中右記〕寛治五年十一月十二日、春日祭也、使左少將藤忠教依爲新大納言忠家之養子、自花山院被出立、次第大略存先規歟、但隱座瓶子右少將顯實朝臣位上取之、萬人爲奇怪、是五位之所役也、近代無此事、但日記之家、若是有先例歟、然而近代頗無由事也、人以有不得心氣、

〔續世繼二三葉の松〕當代倉高は、一院白河後の御子、御母は皇后宮滋子ときこえさせ給、贈左大臣平時信のおとゞの御女なり、略中いままた平の氏の國母、かく榮えさせ給ふうへに、同じ氏の上達部殿上人、近衛づかさなど多くきこえ給、此氏の然るべく榮え給ふ時のいたれるなるべし、たひらの氏のはじめは、一つにおはしましけれど、にきの家と、世のかためにおはする筋とは、久しくかはりてかたぐ聞え給を、いづ方もおなじ御世に、みかご后おなじ氏に榮えさせ給める、